のしろの未来はみんなでつくる

のしろいちのコンセプトです。この言葉のとおり、のしろいちには多くの人が関わり、能代の未来を見つめて一緒にイベントをつくっています。

考えます。能代の活性化

能代第二中学校
飯坂颯大さん　畠山凜子さん　芳賀陽真璃さん

毎年、秋ののしろいちの際、空き店舗を活用してイベントを実施しています。今年は、能代の良さや面白さを発信できる縁日などの企画を考えました。能代がいつもより活気づく、大好きなのしろいち。お客さんと一緒に盛り上がれるよう、また能代の活性化のために何ができるか考えながら取り組みます。

まちづくりに興味

秋田県立大学大学院
システム科学技術研究科 修士２年
田口 径さん

マルヒコビルヂングの改修ワークショップに参加し、中心市街地のまちづくりやマルヒコで何かする人達に興味を持ちました。大学院の修士論文を「どうすれば市民が気軽にまちづくりに関われるのか」をテーマにまとめようと思っているので、イベントを手伝いながら考えたいと思います。

目を引くデザインを

リブウト アートワーク
藤田明美さん　藤田喜彦さん

イベントのチラシデザインを担当しています。秋ののしろいちのチラシは、クラシックでユニークなロゴが引き立つように単色で潔く、冬ののしろいちのチラシは手作り感を大切にしてデザインしています。今回はデザインのほか「占いの小部屋」を企画したので、皆さんに楽しんでもらえるように準備を頑張ります。

にぎわう風景つくること大事

イベントMC
藤田ゆうみんさん

学生時代から比べると少し寂しい印象だった畠町ですが、年に数回でも、人でにぎわう風景をつくれていることが誇らしいです。大人も全力で楽しんでいる部分も魅力です。その姿が子どもにもいい影響を与えていると思います。これからも人が主役のイベントとして続いてほしいです。

駅前にかつてのにぎわいを

能代商工会議所青年部
丸岡竜太郎さん　菊池幸礼さん

「アメリカ横断ウルトラクイズ」を模したクイズイベントを企画しています。のしろいちの出店店舗を巡って能代に関するクイズを解き、決勝戦として能代版ウルトラクイズに挑戦してもらいます。景品も用意しています。初参加となりますが、子どものころに見た駅前のにぎわいが戻るよう、貢献していきます。

のしろいちを機に団体発足

ノーザンモルッククラブ代表
関 晃多さん

のしろいちでおなじみとなったモルック。市職員としてのしろいちの担当部署に異動した1年目に、木都に関する企画として提案したのが始まりです。今年、団体も発足。モルックものしろいちも、体験した子どもが、またその子どもへと楽しさを伝え、みんなで作り上げるイベントになればうれしいです。

告知も作っていただきました！

出店者も楽しい

ハンドメードサークルCreer 代表
岩本 恵さん

第０回にマルシェの出店者として参加し、マルシェの運営や事務局に携わっています。毎回、内容盛りだくさんで、お客さん同様、出店者も楽しめるのが魅力。「のしろいちに出店してみたい」という声もたくさんいただきます。ハンドメード作家さんとのしろいちをつなぐ役割を担っていきたいです。

能代と関わるきっかけ

地域おこし協力隊
金谷歩実さん

地域おこし協力隊になる前、能代との関わりを持つきっかけになったのがのしろいちでした。能代駅前や畠町が多くの人でにぎわい、地元能代の新たな一面を実感しました。現在は実行委員として、会場の装飾を担当しています。イベントの顔となる看板は今年も設置します。来場者が楽しめるように準備します。

高校生も企画に参加

能代高校３年
堀口琉輔さん

地元の能代山本地域を盛り上げたいと思い、８月ののしろいちからイベントの準備や片付けを手伝っています。市民の皆さんが喜んでいる姿を見ると、やりがいを感じます。秋ののしろいちではイベントの企画も担当します。高校生や若い人が、準備だけでなく企画に携われることも、のしろいちの魅力です。

淳城南小学校６年
戸松勇誠さん　篠原明日奏さん　伊藤ことねさん

私たちの小学校では秋ののしろいちの際、縦割り班で買い物したり、作品を展示したりしています。ぜひ聞いてほしいのが全校合唱です。月ごとに練習している歌を２曲披露します。今回の曲は「勇気」がテーマのあの曲。楽しみにしていてください。のしろいちは、大人になってもつながっていたいイベントです。

子ども真ん中ののしろいち

なべや製麺
鍋谷 暁さん

アツアツのうどんで熱く盛り上がる「のしろうどん」早食いバトルを、秋ののしろいちで実施しています。市外からの参加も多いです。参加する子どもを、その友達が一生懸命応援していて、のしろいちは子どもが真ん中にいるイベントだと感じます。今回もおいしいうどんを用意しています。仮装もしますのでお楽しみに。

教えて 能代の『あのころ』

畠町商店街振興組合 組合長
塚本真木夫さん

昭和59年に能代市で青年会議所の東北地区会員大会が開かれ、記念事業として「東北フェスティバル」が行われました。青森ねぶたや盛岡さんさ踊りなどが大通りを練り歩き、大変な盛り上がりでした。その後、62年におなごりフェスティバルがスタートしました。おなごりの終了がきっかけとなり、のしろいちが始まったと聞きました。若い人が元気でとてもいいイベント。駅前や畠町のにぎわいにつながることを期待しています。

畠町通りの空き店舗大家
山内 真さん

昭和30年代の終わりごろ、現在の能代駅前から駅前交差点辺りに市が立っていました。野菜や魚介など、さまざまな物が売られていました。駅前や畠町通りには多くの商店が軒を並べ、多くの行商でとてもにぎわっていました。今は空き店舗が増えてしまいましたが、のしろいちで空き店舗をイベントスペースとして活用していただけるのはとてもうれしいことです。のしろいちの日は、昔の畠町のにぎわいが復活したように感じられ、とても楽しい気持ちになります。